

雑誌「教育研究」算術教育関係論文目録 (戦前期)

蔵 原 清 人

The List of the Papers on Mathematics Teaching in the
Journal of “Study on Education (Kyoiku Kenkyu)”

(1904. 4～1940. 12)

Kiyohito Kurahara

解 説

本目録は戦前期の雑誌「教育研究」、すなわち 1904年の創刊より 1940年12月の休刊までに掲載された算術教育関係論文を『「教育研究」総目次』によって拾ったものである。(ただし臨時増刊号については総目次には含まれていないので今回は省いた。)これらののべ総数は 677 編に上る。

雑誌「教育研究」は東京高等師範学校附属小学校初等教育研究会の機関誌として創刊されたもので戦前において我が国の教育界に絶大な影響を持っていた雑誌である。このような雑誌を教育史の研究の中に位置付けるとすればどのようにいえるであろうか。教育史研究のなかでよくいわれることに「制度」と「実態」という枠組がある。ここでの「制度」は法制を中心としたものであり、それにならずしも尽きないものないし現場での裁量に任されるものを含めて教育の「実態」を対比させて考えるものである。近代の教育が一国の社会制度として行われるということは、何らかの形で法制化されそれに基づいて行われていることである。しかし教育の実際活動の全てが法制によって規定されるものではないことは明らかであり、その点に着目して「法制」に対置しての「実態」把握の主張がされるのである。

この主張は当然のことであると考えるが、そうすると次に「実態」は何を手がかりとして把握するかという大問題が生じる。一つの方法は教師の側の記録や生徒の思い出、作品など直接教室の中で生み出された活動についての資料を探索し、研究することである。これは大変貴重な研究となろうが、個別的、地方的なものであり、そのままではその時代の教育活動全体の傾向を示すものとしての保障は与えられないといわ

ざるをえない。そこで全国的動向のなかにこうした活動を位置付けるために全国的な範囲で読まれた教育雑誌の意味が浮かび上がってくる。すなわちある主張ないし教育活動はこうした雑誌に掲載されることによって全国的に影響を与え、他方その主張や活動が全国で認知されることになるという機能を有することである。したがって前述のような個々の学校や地方で行われた教育活動をこうした雑誌の誌面の傾向のなかにおき、一般性が強いかどうか判断する有力な手がかりとすることは許されるであろう。こうした見地から雑誌「教育研究」を見れば、本誌は戦前期に置かれた4高等師範学校のなかでも最も歴史があり文部省とも太いパイプをもっていた東京高師関係者によって刊行されたという点で、それぞれの時代の主要傾向を代表するものであり、また付属小学校をはじめ教員の執筆者が多いことも現場の教員の動向をあらわしているのので、このような判断基準として意味をもっているといえることができる。

以下では本目録の特徴について若干の解説をしたい。

1. 掲載論文数の特徴

まず総数 677 編の論文の年次別掲載数を見よう。(表 1)

全体では年平均18.3編であるが、1930年からほぼ倍増していることが注目される。1930年というのは数学教育改造運動がわが国でも高まり特に小学校教育において活発に研究や新しい議論が進み始めた年であった。そして一番のピークである1935年に小学算術書の刊行が始まったのであった。後にふれるように「教育研究」誌はこの時期オピニオン・リーダーとしての役割を積極的に果たすようになるのである。掲載論文数の変化はこのような本誌の役割の変化を推察させるものとなっている。

表 1 算術関係論文年次別掲載数

1904年	19編	1917年	13編	1930年	24編
1905	17	1918	5	1931	32
1906	10	1919	11	1932	28
1907	10	1920	8	1933	27
1908	5	1921	14	1934	30
1909	9	1922	11	1935	47
1910	7	1923	4	1936	44
1911	8	1924	10	1937	42
1912	13	1925	14	1938	35
1913	15	1926	15	1939	23
1914	14	1927	18	1940	31
1915	16	1928	21		
1916	12	1929	15	総計	677

2. 執筆者からみた特徴

次に執筆者についてみてみよう。算術関係の論稿の執筆者は無記名を除き合計54名（ただしペンネーム、機関名を含む）である。（表2）

表2 執筆者一覧（執筆開始年代順）

氏 名	初 (年)	出 (月)	同通巻 (号)	最 (年)	終 (月)	同通巻 (号)	掲載期間 (年ヶ月)	掲載数 (回)	10回以上執筆者の 年あたり掲載数
阿知波小三郎	4	4	1	4	11	8	0 7	7	
後藤胤保	4	5	2	21	7	225	17 3	43	2.5
水戸部寅松	4	6	3	25	7	290	21 2	33	1.6
松田茂	4	9	6					1	
堀田鎰次郎	4	10	7					1	
立石仙六	5	3	12	8	4	49	3 2	7	
千 幹	5	8	17					1	
佐々木吉三郎	5	10	19	5	11	20	0 2	2	
ワイ・エス生	6	5	26					1	
相島亀三郎	6	5	26					1	
有川国千賀	6	5	26					1	
栗野冷佑	6	9	30					1	
朝倉政行	8	1	46	17	7	167	9 7	6	
梯英雄	9	4	61	9	7	64	0 4	3	
岡千賀衛	9	11	68	13	12	117	4 2	14	3.4
記者	9	11	68	19	2	187	9 4	5	
高師付属小学校	10	6	75					1	
安東寿郎	11	2	83	36	10	455	13 7	25	1.8
竹陵	11	2	83					1	
(無記名)	11	7	88	35	8	437	——	6	
肥後盛熊	11	12	93	27	4	313	15 5	32	2.1
加藤末吉	12	4	97					1	
算術科研究部	12	12	105	13	7	112	0 8	8	
大倉樗次郎	13	4	109					1	
如矢生	13	6	111					1	
田島真治	13	9	114	15	5	137	1 9	3	
一記者	13	10	115					1	
本校研究部	14	4	122					1	
大野左吉訳	15	6	138	15	8	140	0 3	3	
玉水生	15	11	144					1	
三井善五郎	16	1	146	29	7	344	13 6	33	2.4
岸川梢	16	2	147	16	3	149	0 2	2	
高橋喜藤治	16	10	156	32	4	385	15 7	18	1.2

蔵 原 清 人

算術研究部	19	3	188	39	2	493	20	0	52	
水木梢	19	3	188	19	7	193	0	5	3	
橋本為次	19	5	191	37	4	463	18	0	12	0.7
佐々木等	20	12	215						1	
山田善郎	22	10	246						1	
武井勇喜	22	12	249	40	8	517	17	9	22	1.2
郡司宗雄	24	4	271	27	5	314	3	2	4	
堂東・稲次(連名)	24	7	275						1	
鹿児島登左	24	8	276	24	11	280	0	4	4	
稲次静一	25	1	282	31	2	368	6	2	18	2.9連名を含む
堂東伝	25	1	282	35	8	437	10	8	8	
黒沼勇太郎	25	1	282	26	12	309	2	0	7	
高等小学研究部	27	2	312						1	
山本松七	27	8	317	40	10	519	13	3	65	4.9
佐藤良一郎	27	8	317	30	9	362	3	2	3	
キナスト	28	6	327						1	
関根忠	29	9	347	40	12	522	11	4	70	6.2
高木佐加枝	30	5	356	40	12	522	10	8	80	7.5
池松良雄	30	5	356	40	11	521	10	7	53	5.0
岸一敏	35	6	435	35	9	438	0	4	3	
青木誠四郎	35	10	440						1	
岸田弥吉	35	12	442						1	
鍋島信太郎	36	4	447						1	

合計 54名 (無記名を除く)

1916年まではほとんど毎年新しい執筆者が加わっていたが、30年頃までにはその傾向がやや鈍っている。その後は新しい執筆者がほとんど増えず、36年4月の鍋島信太郎を最後に新たな執筆者は参加していない。

これらは附属小学校の教員の人事ともかかわっているが、同時に執筆者が専門化したことを指摘できる。掲載回数別にみると10回未満のものが39名であり、1回だけのものも22名(うち記名の個人執筆者は12名)いる。これに対し10回以上のものは15名で、うち20回以上のものは11名(うち1は団体)である。論文総数677(延べ掲載数)に対してこれら11名の執筆回数は合計で508回、75%に及んでいる。10回以上のものでは570回、84%余りにも達する。これによれば本誌の算術論文はごく一部の執筆者によって担われていたといえる。執筆回数の多い個人の執筆者は初期には後藤胤保、水戸部寅松、中期には岡千賀衛、安東寿郎、肥後盛熊、三井善五郎、高橋喜藤治、後期には武井勇喜、稲次静一、山本松七、関根忠、高木佐加枝、池松良雄な

どがいる。特に50回以上の執筆者は高木、関根、山本、池松の4名であるがいずれも後期に集中している。

新しい執筆者の増加が鈍ることと特定の個人が多く執筆をするようになることとははっきりと対応しているといえる。この時期は「小学算術」の刊行や国民学校の発足などにより算術関係の論文の掲載が増えたことと一致している点が注目される。

3. 執筆テーマ

次に執筆テーマであるが、いくつかのグループに分けられる。

その一つは教則や教科書の変化に応じた解説ないし論評である。たとえば岡千賀衛の「修正算術書の研究」や算術研究部の新算術書の「教材研究座談会」などに代表されるが、それぞれの時期に必ず取り上げられている。

次にあげられるのは個々の教材および指導法についてのものである。これも前者と関連しているであろうが、従来から扱われている教材について研究したものと、新しい教材の導入について論ずるものとに分かれる。これらのなかには継続して取り上げられるテーマもある。特に顕著なものは応用問題に関するものである。応用問題についての考え方や内容はそれぞれに時期によって大きく変化しているものであるから、一貫して取り上げられているからといって同じ立場のものとはいえない。しかし応用問題というものが算術教育のなかで重要な問題であるということは時代によらず認められていたといえよう。

第三に授業研究に関するもので、初期の「算術科実地教授案」や個々の訓導の「算術実地授業」などがある。後には研究授業と称することもあった。

第四には算術教育のあり方やその時期の教育思潮に関連するテーマがある。大正期の劣等児、教育測定などの教育心理学的研究、大正から昭和にかけての度量衡やグラフ等である。さらに1930年頃より算術論文の掲載数が増加したことにふれたが、この頃より郷土教育、生活教育など教育思潮との関係で算術教育を論ずるものが増えている。さらに1934年頃から日本精神論など「時局的」なテーマも見られるようになった。

以上のような4つの分野にひとまずまとめてみたが、今日と比べてみてこれらの論文のテーマの多彩さには誠に驚かされるものがある。

付記 本研究は平成元年度及び2年度特別研究費の支給を受けた。本報告はこれまでの研究成果の一端を報告させていただいた。

雑誌「教育研究」算術教育関係論文目録（戦前期）

- 凡例 1. 本目録には『「教育研究」総目次』より「教育研究」創刊号より戦前期最後の1940年12月号までに掲載された算術教育関係論文を採録した。
2. 同目録に収録されていない特集号の論文については割愛した。また1922年1月号についても収録されていないので割愛した。
3. 年は西暦の下2桁を示す。また巻号は通巻号数を示した。

年 月	巻号	著者名	題 目
04 04	001	阿知波小三郎	小学校算術に於ける算法算式の統一及其教授法
04 05	002	後藤胤保	誤り易き数と量とに就きて（一）
04 06	003	阿知波小三郎	小学校算術に於ける算法算式の統一及其教授法（続き）
04 06	003	後藤胤保	誤り易き数と量とに就きて（第二号の続き）
04 06	003	水戸部寅松	尋常小学校第一学年 算術教授上の諸問題
04 07	004	阿知波小三郎	小学校算術に於ける算法算式の統一及其教授法（承前）
04 07	004	後藤胤保	誤り易き数と量とにつきて（承前）
04 07	004	水戸部寅松	尋常小学校第一学年 算術教授上の諸問題（承前）
04 08	005	阿知波小三郎	小学校算術に於ける算法算式の統一及其教授法（承前）
04 08	005	水戸部寅松	尋常小学校第一学年 算術教授上の諸問題（承前）
04 09	006	阿知波小三郎	小学校算術に於ける算法算式の統一及其教授法（承前）
04 09	006	水戸部寅松	尋常小学校第一学年 算術教授上の諸問題同
04 09	006	後藤胤保	度量衡貨幣及角度等に関する標準物
04 09	006	松田茂	高等単級算術科教授の実況
04 10	007	阿知波小三郎	小学校算術に於ける算法算式の統一及其教授法（承前）
04 10	007	堀田銓次郎	尋常小学校に於ける小数教授法
04 10	007	後藤胤保	暗算の捷徑
04 11	008	阿知波小三郎	小学校算術に於ける算法算式の統一（承前）
04 11	008	後藤胤保	暗算の捷徑（承前）
05 01	010	水戸部寅松	尋常小学校第二学年算術教授上の諸問題
05 02	011	水戸部寅松	尋常小学校第二学年算術教授上の諸問題（承前）
05 03	012	後藤胤保	文部省著作国定算術教授書使用上の注意
05 03	012	立石仙六	算法の順序を基本としたる算術初歩教授
05 04	013	後藤胤保	文部省著作算術教授書使用上の注意（承前）
05 04	013	立石仙六	算法の順序を基本としたる算術初歩教授（承前）
05 05	014	後藤胤保	国定算術書使用上の注意（承前）
05 06	015	後藤胤保	国定算術書中の教授資料（第一学期分）
05 07	016	後藤胤保	国定算術書中の教授資料（第二学期分）
05 08	017	水戸部寅松	算術の応用問題
05 08	017	千 幹	尋常四学年の算術に於て
05 09	018	水戸部寅松	算術の応用問題（続）

雑誌「教育研究」算術教育関係論文目録（戦前期）

05 10	019	佐々木吉三郎	算術教授の手續を論じて現今の通弊に及ぶ
05 10	019	後藤胤保	国定算術書中の教授資料（第三学期分）
05 11	020	後藤胤保	国定算術書中の教授資料（第三学期分）
05 11	020	佐々木吉三郎	算術教授の手續を論じて現今の通弊に及ぶ（承前）
05 12	021	水戸部寅松	尋常小学科第三学年算術教授上の諸問題
06 03	024	後藤胤保	算術教授資料としての国勢大要
06 04	025	後藤胤保	算術教授に関する参考用図書器具
06 05	026	相島亀三郎	尋常第二学年算術教授の一例
06 05	026	有川国千賀	算術科劣等生取扱方の経験談
06 05	026	ワイ・エス生	算術科劣等生取扱方
06 05	026	後藤胤保	算術教授に関する参考用図書器具
06 09	030	水戸部寅松	尋常科に於ける分数教授
06 09	030	栗野冷佑	実質の方面より見たる算術教授
06 11	032	後藤胤保	算術問題構成資料としての日用品
06 12	033	後藤胤保	算術問題構成資料としての日用品（つづき）
07 03	036	立石仙六	小学校六カ年に於ける算術教授上特に考究し置くべき諸問題
07 04	037	後藤胤保	国定算術書の修訂資料
07 05	038	立石仙六	小学校六カ年に於ける算術教授上特に考究し置くべき諸問題
07 05	038	後藤胤保	国定算術書の修訂資料
07 07	040	後藤胤保	数量的方面より見たる新聞紙
07 07	040	立石仙六	算術教授上特に考究し置くべき諸問題（第38号の続き）
07 08	041	後藤胤保	掛け算九々の教授及応用問題につき
07 09	042	水戸部寅松	小数乘法及除法教授
07 10	043	立石仙六	算術教授上特に考究し置くべき諸問題
07 12	045	後藤胤保	算法上の五誤
08 01	046	朝倉政行	六学年単級に於ける算術科に就きて
08 02	047	水戸部寅松	除法の初歩教授
08 03	048	後藤胤保	算法上の五誤（四十五号のつづき）
08 04	049	立石仙六	算術教授上の諸問題（つづき）
08 05	050	水戸部寅松	分数乘法及除法教授
09 03	060	後藤胤保	鯨尺全廃について
09 04	061	梯英雄	数図及計数器についての研究
09 04	061	後藤胤保	英国度量衡の適用せられつつある日用品につき
09 05	062	梯英雄	数図及計数器についての研究
09 07	064	梯英雄	数図及計数器についての研究（続）
09 08	065	朝倉政行	再六学年単級算術科につきて
09 11	068	岡千賀衛	計算練習に於ける組織的段階的用意
09 11	068	記者	単級算術教授研究会
09 12	069	岡千賀衛	計算練習に於ける組織的段階的用意
10 02	071	岡千賀衛	筆算除法教授に就いて
10 06	075	高師付属小学校教授細目（算術科）	

10 08	077	岡千賀衛	修正算術書の研究
10 09	078	岡千賀衛	修正算術書の研究 (承前)
10 10	079	岡千賀衛	修正算術書の研究
10 11	080	岡千賀衛	修正算術書の研究
10 12	081	岡千賀衛	修正算術書の研究
11 01	082	後藤胤保	数に関する新教材
11 02	083	竹陵	算術教授に関する研究評論
11 02	083	安東寿郎	小学算術研究家諸君に望む
11 06	087	岡千賀衛	忘れられたる算術教授の一面
11 07	088		算術科実地教授案
11 08	089		算術科実地教授案
11 10	091		算術科実地教授案
11 12	093	肥後盛熊	算術教授の論理的要件
12 01	094	肥後盛熊	算術教授の論理的要件
12 02	095	肥後盛熊	算術教授の論理的要件 (続)
12 04	097	後藤胤保	算術教授法
12 04	097	加藤末吉	算術教授と道德教育
12 06	099	後藤胤保	算術教授上最も力を入れるべき点
12 07	100	後藤胤保	百といふ数に就きて
12 07	100	朝倉政行	尋常単級の算術科に就きて
12 07	100	岡千賀衛	暗算筆算珠算の統一
12 07	100	肥後盛熊	算法の理由の教へ方につきて
12 08	101	肥後盛熊	分数教授上の主要問題
12 11	104	肥後盛熊	比例の教授法
12 12	105	算術科研究部	小学校に於ける算術科に関する研究
12 12	105	岡千賀衛	計算器
13 01	106	算術科研究部	小学校に於ける算術科に関する研究
13 02	107	算術科研究部	小学校に於ける算術科に関する研究
13 03	108	算術科研究部	小学校に於ける算術科に関する研究
13 03	108	後藤胤保	外国度量衡に関する教材の軽減につき
13 04	109	算術科研究部	小学校に於ける算術科に関する研究
13 04	109	大倉征次郎	小学校に於ける透視図法教授について
13 05	110	算術科研究部	小学校に於ける算術科に関する研究
13 06	111	算術科研究部	小学校に於ける算術科に関する研究
13 06	111	如矢生	珠算教授書を読む
13 07	112	算術科研究部	小学校に於ける算術科に関する研究
13 09	114	田島真治	低能児の算術の初歩教授に就いて
13 10	115	岡千賀衛	価値ある計算練習問題
13 10	115	一記者	肥後氏の算術教授
13 11	116	岡千賀衛	価値ある計算練習材料
13 12	117	岡千賀衛	価値ある計算練習

雑誌「教育研究」算術教育関係論文目録（戦前期）

14 02	120	水戸部寅松	諸等数教授の研究
14 02	120	肥後盛熊	応用問題に関する研究
14 03	121	肥後盛熊	応用問題に関する研究
14 03	121	後藤胤保	家庭算術に就き
14 04	122	本校研究部	現代教育の欠陥に対する救済方策 算術科に就いて
14 05	123	後藤胤保	家庭算術
14 06	124	肥後盛熊	応用問題解法の要件
14 06	124	後藤胤保	家庭算術につきて
14 07	125	後藤胤保	家庭算術につきて
14 09	127	肥後盛熊	応用問題の選択に関する論評
14 10	128	肥後盛熊	応用問題に関する研究
14 11	130	水戸部寅松	分数教授の研究
14 11	130	肥後盛熊	応用問題の選択に関する研究
14 12	131	肥後盛熊	応用問題の選択に関する研究
15 02	133	水戸部寅松	片仮名・数字・平仮名の書法
15 02	133	後藤胤保	数の東京
15 03	135	肥後盛熊	高等一学年算術書の研究
15 04	136	田島真治	劣等児の算術の基礎的練習法
15 05	137	田島真治	劣等児の算術の基礎的練習法
15 06	138	後藤胤保	数の東京
15 06	138	大野左吉訳	知力の測定
15 07	139	肥後盛熊	困難なる算術教材と其の取扱法
15 07	139	大野左吉訳	知力の測定
15 08	140	水戸部寅松	算術に於ける事物問題の取扱
15 08	140	大野左吉訳	知力の測定
15 09	141	水戸部寅松	算術に於ける事物問題の取扱
15 10	142	肥後盛熊	如何なる暗算を課すべきか
15 10	142	水戸部寅松	運算の教授と練習
15 11	144	肥後盛熊	如何なる暗算を課すべきか
15 11	144	玉水生	岸川氏の算術教授
16 01	146	後藤胤保	算術教授一夕談
16 01	146	後藤胤保	国民教科としての算術科の革新（教育革新意見）
16 01	146	三井善五郎	諸等数材料取扱の刷新（教育革新意見）
16 02	147	肥後盛熊	如何なる暗算を課すべきか
16 02	147	岸川梢	算術事物問題に於ける定理の取扱
16 03	149	後藤胤保	算術教授法一夕談
16 03	149	岸川梢	算術事物問題に於ける定理の取扱
16 04	150	肥後盛熊	算術教授上の疑問
16 06	152	肥後盛熊	算術応用問題に於ける実行意見
16 07	153	三井善五郎	尋常四年の算術について
16 10	156	高橋喜藤治	算術教授に関する諸問題

16 11	157	高橋喜藤治	算術教授に関する諸問題
17 02	161	三井善五郎	尋一の算術教授
17 02	161	高橋喜藤治	実測的算術教授
17 03	163	三井善五郎	尋一の算術教授
17 05	165	高橋喜藤治	分数の教授に就いて
17 05	165	朝倉政行	尋常科単級に於ける算術教授
17 06	166	朝倉政行	尋常科単級に於ける算術教授
17 06	166	高橋喜藤治	分数応用問題の取扱に就いて
17 07	167	朝倉政行	尋常科単級に於ける算術教授
17 08	168	高橋喜藤治	歩合算の教授について
17 08	168		後藤氏の算術実地授業
17 09	169	高橋喜藤治	歩合算の教授について
17 11	172	肥後盛熊	算術に於ける実験実測
17 11	172	記者	三井訓導の算術実地授業
18 02	175	肥後盛熊	尋常小学第六学年第三学期の算術教授
18 05	178	肥後盛熊	暗算練習の範囲
18 06	179	肥後盛熊	暗算練習の範囲
18 10	183	肥後盛熊	比例算の教授
18 10	183	記者	鶴羽訓導算術実地授業
19 01	186	肥後盛熊	算術教授の研究は如何に進むべきか
19 01	186	記者	水木訓導算術実地授業
19 02	187	肥後盛熊	算術科の成績に現はるゝ欠陥
19 02	187	記者	郡司訓導算術実地授業
19 03	188	水木梢	算術応用問題解法指導の真髓
19 03	188	算術研究部	算術協議会について
19 04	190	水木梢	算術教授の本質
19 04	190	算術研究部	小学算術教材整理案
19 05	191	橋本為次	小学算術教材整理案につきて
19 07	193	水木梢	算術応用問題解法指導の実際
19 12	199	橋本為次	高二女算術教授の実際
20 01	200	算術研究部	算術教授の改造（改造号）
20 04	205	橋本為次	高一算術教材の取扱
20 06	207	肥後盛熊	分数教授の時機と方法
20 07	208	肥後盛熊	分数教授の過程
20 08	209	橋本為次	高一度量衡の教授の実際
20 08	209	肥後盛熊	新主義による英国の算術
20 09	210	三井善五郎	掛算九々と割算の教授
20 12	215	佐々木等	競技と数観念
21 01	217	後藤胤保	普通教育と度量衡の統一
21 01	217	三井善五郎	応用問題の刷新
21 02	218	高橋喜藤治	算術教授の雑感

21 03	220	肥後盛熊	修正算術書の批評
21 04	222	水戸部寅松	計算用具としての珠算の価値
21 05	223	水戸部寅松	珠算の課程案と基本教材
21 05	223	三井善五郎	応用問題教授の刷新
21 06	224	後藤胤保	改正度量衡法
21 07	225	橋本為次	算術科に於ける地図利用
21 07	225	後藤胤保	度量衡展覧会の概況
21 09	228	水戸部寅松	珠算教材の系統的取扱
21 10	229	水戸部寅松	珠算教材の組織的研究
21 11	230	水戸部寅松	珠算教材の組織的研究
21 12	232	水戸部寅松	珠算教材の組織的研究
22 02	233	算術研究部	メートル法教授の準備
22 02	233	水戸部寅松	珠算一桁割の教材組織
22 03	237	水戸部寅松	珠算二桁割の教材組織
22 03	237	算術研究部	尋六修正算術書の研究
22 04	239	水戸部寅松	珠算二桁割の教材組織
22 05	240	水戸部寅松	珠算二桁割の教材組織
22 06	241	三井善五郎	小学校分数教授に就きて
22 10	246	山田善郎	幾何学的手工教材の取扱
22 10	246	三井善五郎	算術応用問題解法指導
22 11	248	三井善五郎	応用問題解法の指導
22 12	249	武井勇喜	算術教授に於ける遊戯的取扱
23 03	254	水戸部寅松	余の使用する計数器
23 04	256	安東寿郎	高一修正算術書について
23 09	262	高橋喜藤治	諸等数の算法について
23 11	264	三井善五郎	算術教授上の個別扱
24 04	271	郡司宗雄	数量認識の過程と其の発展
24 05	272	郡司宗雄	数量認識の過程と其の発展
24 06	274	三井善五郎	算術教授の本質的研究
24 07	275	堂東・稻次	メートル法普及展覧会
24 08	276	三井善五郎	算術に於ける自発的学習
24 08	276	鹿児島登左	算術科の学習作業
24 08	276	高橋喜藤治	生活尊重の思想と算術教材
24 09	277	鹿児島登左	時に関する法制に就いて
24 10	278	鹿児島登左	時に関する法制に就いて
24 11	280	鹿児島登左	空間に関する法制
25 01	282	水戸部寅松	国民計算能力養成論
25 01	282	三井善五郎	国情と算術教材上の諸問題
25 01	282	稻次静一	今後の算術教育
25 01	282	堂東伝	メートル法度量衡の教授
25 01	282	郡司宗雄	算術作問上の要点

25 01	282	黒沼勇太郎	改正度量衡運用上の注意
25 03	285	三井善五郎	度量衡教材の取扱
25 03	285	水戸部寅松	珠算教材教授の方針
25 04	286	稲次静一	代数学的観念導入の私案
25 05	287	稲次静一	代数学的観念導入私案
25 07	290	高橋喜藤治	算術教育研究の傾向
25 07	290	水戸部寅松	珠算教授の振興
25 09	293	高橋喜藤治	教材としての総九々
25 12	296	三井善五郎	計算外の計算
26 02	299	三井善五郎	算術の生活化に対する批判
26 02	299	稲次静一	幾何形体取扱の一例
26 02	299	安東寿郎	掛算九々の取扱について
26 03	300	黒沼勇太郎	算術教育に関する一考察
26 04	301	黒沼勇太郎	算術教育における科学的考察
26 04	301	安東寿郎	新入児童に算術を教へるには
26 05	302	黒沼勇太郎	算術教育に於ける実験実測
26 05	302	稲次静一	幾何形体取扱ひの例
26 07	303	三井善五郎	尋四の算術教材について
26 07	303	黒沼勇太郎	数に関する根本的考察
26 09	306	黒沼勇太郎	算術教育と数に関する一考察
26 10	307	三井善五郎	算術応用問題解決力の発達
26 11	308	三井善五郎	算術応用問題解決力の発達について
26 12	309	稲次静一	算術教育に於ける一般化
26 12	309	黒沼勇太郎	数量計算に関する取扱と資料
27 01	310	稲次静一	長さの測定法
27 01	310	安東寿郎	算術教育の回顧と展望
27 01	310	三井善五郎	尋五面積梯形教授の経過
27 02	312	高等小学研究部	高等小学算術科教授細目
27 04	313	安東寿郎	グラフ及簡単な微積分
27 04	313	肥後盛熊	新訂尋四算術書に対する所見
27 05	314	三井善五郎	尋五修正算術書の活用について
27 05	314	郡司宗雄	算術力接近の工夫
27 06	315	三井善五郎	算術教育上の直観
27 07	316	高橋喜藤治	度量衡教授に於ける基本単位
27 07	316	稲次静一	一年生に適する算術遊戲の実際
27 07	316	堂東伝	低学年応用問題取扱の一端
27 08	317	佐藤良一郎	最近四世紀間に於ける初等数学教育変革の精神と帰趣
27 08	317	三井善五郎	算術教授上の直観 (二)
27 08	317	山本松七	算術教育の史的考察
27 10	319	三井善五郎	算術教育に於ける理解
27 12	321	佐藤良一郎	算術の所謂応用問題について

27 12	321	算術研究部	尋四算術科教授細目
28 01	322	三井善五郎	今後の算術教育について
28 01	323	算術研究部	尋五算術科教授細目
28 01	323	安東寿郎	尋六算術書修正の要点及其の取扱
28 04	325	武井勇喜	現今の算術教授に対しての所感
28 04	325	三井善五郎	算術教科書の活用
28 04	325	稲次静一	算術科に於ける帰納的発見的学習法の指導
28 04	325	算術研究部	尋六算術科教授細目
28 05	326	安東寿郎	修正高一算術書第一、二編の材料について
28 05	326	堂東伝	尋三算術教授に対する私の感想
28 05	326	稲次静一	幾何図形に就いて
28 06	327	三井善五郎	算術の統一的理解
28 06	327	キナスト	哲学的方法論と数学的教授
28 07	329	山本松七	現代算術教育の實際的諸問題（其の一）
28 08	331	稲次静一	算術教材としての数学史
28 09	332	安東寿郎	函数及函数のグラフについて
28 09	332	三井善五郎	算術の統一的理解
28 09	332	稲次静一	間接測量による度量衡指導
28 09	332	山本松七	現代算術教育の實際的諸問題（其の二）
28 11	334	稲次静一	算術科指導法の考察（その三）
28 12	335	安東寿郎	再び函数及函数のグラフについて
28 12	335	稲次静一	尋常小学校に於ける算術科の備品表
29 01	337	三井善五郎	現代社会と算術教育
29 03	339	武井勇喜	国定算術書の補充問題について
29 04	340	三井善五郎	算術教育上主力を注ぐべき方面如何
29 04	340	武井勇喜	国定算術書の補充問題について（二）
29 04	340	堂東伝	尋四算術教授の反省と計画
29 05	341	安東寿郎	修正高二算術書第一、二編の材料について
29 05	341	三井善五郎	算術教育上主力を注ぐべき方面如何（続）
29 07	344	三井善五郎	算術教育上主力を注ぐべき方面
29 07	344	山本松七	算術教育と創造的智性
29 08	346	武井勇喜	算術教育雜感二三
29 09	347	関根忠	算術教材としての身体検査
29 09	347	高橋喜藤治	全国訓導（算術）協議会開催にあたって
29 10	348	山本松七	現代算術教育の實際的諸問題（其の三）
29 10	348	関根忠	統計的観
29 11	349	関根忠	統計的観（二）
30 01	352	山本松七	現代社会とグラフの指導（現代社会と各科の教育）
30 01	352	関根忠	独逸と米国の算術書
30 02	353	稲次静一	中等学校の入学試験について小学校算術教育の立場よりの希望
30 02	353	関根忠	独逸と米国の算術書（二）

30 03	354	高橋喜藤治	学年末における算術の総練習（最終学年各科総くくり）
30 03	354	堂東伝	尋五の算術教育に就て
30 04	355	山本松七	修正高三第一編の算術教材と其の取扱に就いて
30 05	356	池松良雄	算術教材の整理（一）
30 05	356	高木佐消枝	算術科入学試験問題に対する感想
30 06	358	関根忠	算術科の思考
30 06	358	算術研究部	算術科実地授業
30 07	359	山本松七	修正算術書に現れたグラフ教材の調査
30 07	359	池松良雄	数量生活指導の限界（続）
30 08	361	高木佐加枝	基礎計算の教授其の一
30 08	361	算術研究部	算術教授細目
30 09	362	佐藤良一郎	小学校算術教授を傍観して
30 09	362	関根忠	負数の教授
30 11	364	関根忠	高一における方程式の教授に就いて
30 11	364	高木佐加枝	基礎計算の教授
30 11	364	池松良雄	数量生活指導の限界
30 11	364	算術研究部	算術教授細目
30 12	365	稲次静一	郷土を基調とする算術教育
30 12	365	池松良雄	算術生活化の偏倚的傾向
30 12	365	山本松七	グラフ教材に関する研究二つ
31 01	367	稲次静一	郷土を基調とする算術教育（郷土化教育）
31 01	367	池松良雄	郷土教育に参与する算術科の使命（郷土化教育）
31 01	367	山本松七	小学校で代数的教材を学習させることの意義
31 01	367	高木佐加枝	数学発達史より見たる算術教育の帰趨
31 01	367	関根忠	高一算術に於ける公式・整式・分数式に就いて
31 02	368	稲次静一	郷土を基調とする算術教育
31 02	368	関根忠	高一算術に於ける公式・整式・分数式に就いて
31 02	368	池松良雄	郷土教育に参与する算術科の使命
31 03	369	高木佐加枝	分数方程式に就て
31 03	369	池松良雄	郷土教育に参与する算術科の使命
31 04	370	算術研究部	算術学習指導要領（各科教育の新原理と其の実際過程）
31 04	370	池松良雄	新潮を基調とする算術教育の進路
31 04	370	関根忠	幾何図形教材の一考察
31 05	371	高木佐加枝	応用問題解法に於ける驗算
31 05	371	山本松七	高等小学校代数教材及取扱要覧
31 05	371	池松良雄	新時代算術教育の一大欠陥としての練習不足に就て
31 06	373	高橋喜藤治	尋二における長さと時間の指導について
31 06	373	池松良雄	算術教育の時間的破産
31 06	373	武井勇喜	算術科に於ける事実問題の事実内容の探究について
31 06	373	山本松七	数量の東京
31 07	374	高木佐加枝	算術教育の生活化（教育の生活化）

31 07	374	池松良雄	算術教育・統整指標としての生活化（教育の生活化）
31 07	374	算術研究部	算術科実地授業
31 08	376	高橋喜藤治	算術教育の生活化（教育の生活化）
31 09	377	関根忠	算術科と測定
31 09	377	高木佐加枝	面積教材指導の一部面
31 10	378	関根忠	算術科と測定
31 10	378	池松良雄	算術教育統整指標としての生活化
31 11	379	高木佐加枝	平方根の指導
31 11	379	池松良雄	算術科目的の生活的考察
31 12	380	関根忠	算術科に於ける測定の材料に就いて
31 12	380	山本松七	小学校に於ける数字指導の将来
32 01	382	池松良雄	現代の算術教育に参加するための新資格（各教科教師としての修養）
32 01	382	高木佐加枝	算術教育に関する二つの愚見（各教科教師としての修養）
32 01	382	関根忠	測定数値
32 01	382	山本松七	算術教材としての昭和七年
32 02	383	池松良雄	算術科教材の生活的観方
32 03	384	山本松七	算術教育真系統化の要望
32 03	384	高木佐加枝	楕円と拋物線
32 04	385	関根忠	尋一・二の算術（各科模式教材と指導過程）
32 04	385	山本松七	尋三算術の主要教材と指導過程（各科模式教材と指導過程）
32 04	385	高橋喜藤治	尋四算術教材と指導過程（各科模式教材と指導過程）
32 04	385	高木佐加枝	尋五教材円周率の指導（各科模式教材と指導過程）
32 04	385	池松良雄	比例教材の学習指導企画（各科模式教材と指導過程）
32 04	385	安東寿郎	高二に於ける平方根及び二次方程式の取扱 (各科模式教材と指導過程)
32 05	386	高木佐加枝	小数に関する乗法及び除法指導の一端
32 06	388	池松良雄	算術学習に於ける継続的研究
32 07	389	池松良雄	算術学習の生活化要領（生活化指導の実際Ⅱ各科の生活指導）
32 07	389	山本松七	数量生活指導の体験を語る（生活化指導の実際Ⅱ各科の生活指導）
32 07	389	高木佐加枝	尋常科高等科算術生活化の実際に関する二つの着眼 (生活指導の実際Ⅱ各科の生活指導)
32 08	391	池松良雄	算術学習生活化の要領
32 08	391	武井勇喜	高等科に於ける算術生活化の実際
32 08	391	山本松七	生活と度量衡
32 09	392	関根忠	社会生活の算術教授
32 10	393	池松良雄	算術教育と性格陶冶
32 10	393	高木佐加枝	図形教材指導に於ける函数概念の養成
32 12	395	高木佐加枝	算術科に於ける学期末の考查に就いて
32 12	395	池松良雄	算術教育と性格陶冶
32 12	395	関根忠	計算教授の一考察
32 12	395	算術研究部	算数科研究授業

33 02	398	安東寿郎	掛算九々の取扱について
33 02	398	山本松七	算術教材としての国旗
33 03	399	安東寿郎	掛算九々の取扱についての質問に答ふ
33 03	399	関根忠	算術科陶冶の諸方面
33 03	399	山本松七	金利引下と算術書の修正
33 03	399	高木佐加枝	比例教材指導に関する一提唱
33 04	400	算術研究部	最近学芸の進歩と算術教育
33 05	402	安東寿郎	小学校に於ける代数初歩の取扱
33 05	402	関根忠	算術問題論
33 05	402	池松良雄	数量生活と道德生活の関渉
33 06	403	高木佐加枝	負数と其の指導
33 06	403	山本松七	桿秤の製作と指導
33 06	403	池松良雄	事実問題構成の主体
33 07	404	関根忠	算術問題論
33 07	404	池松良雄	算術学習進行の基本形式
33 07	404	山本松七	計量思想の創成と算術教育
33 08	406	高木佐加枝	尋常一年算術教材金銭に関する指導の第一歩
33 08	406	山本松七	計量思想の創成と算術教育
33 08	406	池松良雄	算術学習進行の基本形式
33 09	407	山本松七	算術教育に於ける現実性の強調と将来
33 09	407	池松良雄	算術教育に於ける機会学習
33 09	407	関根忠	算術問題論
33 10	409	高木佐加枝	図形の合同と相似
33 10	409	池松良雄	メートル法強制反対論の真相
33 11	410	池松良雄	算術教育に於ける機会学習
33 12	411	高木佐加枝	尋常一年に於ける数量表示の指導
33 12	411	関根忠	算術事実問題に関する心理学的一考察
34 01	413	算術研究部	算術の教育（各科教育の日本の実践）
34 01	413	武井勇喜	数量觀念の養成（各科教育の日本の実践）
34 01	413	高木佐加枝	図形空間に関する指導の強調（各科教育の日本の実践）
34 01	413	池松良雄	生活算術の日本の実践（各科教育の日本の実践）
34 01	413	関根忠	国民算術の価値と内容（各科教育の日本の実践）
34 01	413	山本松七	日本新算術教育の建設（各科教育の日本の実践）
34 03	415	堂東伝	数字練習の研究
34 03	415	関根忠	算術教材の学習化について
34 03	415	高木佐加枝	数学としての算術と小学校教育としての算術
34 04	416	高木佐加枝	日本算術教育実践上の留意点
34 04	416	山本松七	新時代に於ける角度教育の定明
34 04	416	池松良雄	算術教育の国家的使命と其の実践
34 04	416	関根忠	生活の算術学習化
34 05	418	山本松七	法が小数なる場合の除法教授について

34 06	419	高木佐加枝	数学としての算術と小学校教育としての算術
34 06	419	関根忠	算術事実問題の指導
34 06	419	池松良雄	初学年算術教育の学習形態
34 07	420	高木佐加枝	一次方程式の指導
34 07	420	関根忠	算術事実問題の内容性
34 07	420	山本松七	π と其の取扱
34 09	423	関根忠	算術問題読解と図解の指導
34 09	423	算術研究部	尋常科第二学年算術科実地授業
34 10	425	池松良雄	生活題目による算術学習の功罪（一）
34 11	426	高木佐加枝	掛算九々の構成と練習
34 11	426	関根忠	面積教授に就いて
34 11	426	武井勇喜	算術科に於ける貨幣教材の取扱いに就て
34 11	426	池松良雄	生活題目による算術学習の功罪（二）
34 12	427	安藤寿郎	珠算乗除の教へ方に就いて
34 12	427	武井勇喜	算術科に於ける貨幣教材の取扱いに就て（承前）
34 12	427	高木佐加枝	算術教育と各科教育との交渉
35 01	429	算術研究部	算術教育の学年的発展（各科教育の学年的発展）
35 01	429	池松良雄	暗算学習の学年的発展（各科教育の学年的発展）
35 01	429	山本松七	度量衡教授の一考察（各科教育の学年的発展）
35 01	429	池松良雄	時間学習の学年的発展（各科教育の学年的発展）
35 01	429	武井勇喜	経済教材の学年的発展（各科教育の学年的発展）
35 01	429	関根忠	空間教授の発展（各科教育の学年的発展）
35 01	429	高木佐加枝	グラフ指導の学年的発展（各科教育の学年的発展）
35 01	429	安東寿郎	式・代数式について（各科教育の学年的発展）
35 01	429	安東寿郎	珠算について（各科教育の学年的発展）
35 02	430	安東寿郎	開平及開立の取扱について
35 02	430	関根忠	算術のテストに就いて
35 03	431	安東寿郎	高小算術中の負数の取扱について
35 03	431	関根忠	算術のテストに就いて（承前）
35 03	431	堂東伝	尋四算術教授の績を顧みて
35 03	431	高木佐加枝	算術教育と尋一新算術書
35 03	431	山本松七	度量衡教授の一考察（二）
35 05	433	高木佐加枝	計算に於ける簡便算法
35 05	433	池松良雄	新算術書と数字指導
35 05	433	算術研究部	尋一新算術書の研究と指導
35 06	435	高木佐加枝	計算に於ける簡便算法
35 06	435	岸一敏	算術と理科との有機的経営
35 07	436	高木佐加枝	アメリカの算術書所載数種の算術遊戯
35 07	436	山本松七	生活させる算術教育
35 07	436	橋本為次	尋一算術能力調査の一例
35 07	436	算術研究部	算術学習指導の実際記録

- 35 08 437 関根忠 尋常科に於ける角度教授について
- 35 08 437 安東寿郎 尋一算術下巻の教材について
- 35 08 437 堂東伝 生活算術に就て
- 35 08 437 橋本為次 尋一算術能力調査の一例
- 35 08 437 岸一敏 算術と理科との有機的経営
- 35 08 437 小学校算術科に於ける記号・用語及び記載形式の統一
- 35 08 437 生活算術に就ての談話会
- 35 09 438 高木佐加枝 函数觀念の養成から見た尋一算術書下巻教材の取扱
- 35 09 438 関根忠 尋四第二学期の算術について
- 35 09 438 岸一敏 算術と理科と地理との有機的経営
- 35 10 440 青木誠四郎 算術教育に於ける心理的諸問題
- 35 10 440 池松良雄 新算術書の数計算と数觀念
- 35 10 440 算術研究部 新算術書の十月教材研究座談会
- 35 11 441 高木佐加枝 尋常一年後半期に於ける計算練習の方法
- 35 11 441 池松良雄 新算術書の「計算練習」
- 35 11 441 関根忠 新算術書の事実問題
- 35 11 441 算術研究部 新算術書の十一月教材研究座談会
- 35 12 442 寺田弥吉 弁証法的算術から觀た新算術書
- 35 12 442 安東寿郎 尋二以上の数理思想の自然開發について
- 35 12 442 高木佐加枝 尋常一年後半期に於ける計算練習の方法
- 35 12 442 関根忠 算術問題の所在と形式
- 35 12 442 算術研究部 新算術書の教材研究座談会
- 36 01 444 算術研究部 算術教育方法学の建設（教育方法学の建設と各科指導）
- 36 01 444 安東寿郎 尋四に於ける数理思想の自然開發（教育方法学の建設と各科指導）
- 36 01 444 高木佐加枝 新算術書と方法上の諸問題（教育方法学の建設と各科指導）
- 36 01 444 山本松七 算術教育方法の生物学的基礎（教育方法学の建設と各科指導）
- 36 01 444 関根忠 算術教授に於ける演繹と帰納（教育方法学の建設と各科指導）
- 36 01 444 算術研究部 新算術書の教材研究座談会
- 36 02 445 算術研究部 第四部高二男、算術科研究授業記録
- 36 02 445 算術研究部 新算術書の教材研究座談会
- 36 03 446 高木佐加枝 小学算術の目的及び価値に関する一考察
- 36 03 446 関根忠 分数教材とその指導
- 36 03 446 算術研究部 新算術書教材研究座談会
- 36 04 447 鍋島信太郎 自然科学的教科の指導過程
- 36 04 447 算術研究部 算術科指導過程の再検討（各科指導過程の再検討）
- 36 04 447 武井勇喜 算術科指導過程の再検討（各科指導過程の再検討）
- 36 04 447 高木佐加枝 尋常一年算術教育、算術入門の指導過程（各科指導過程の再検討）
- 36 04 447 池松良雄 新算術の指導過程（各科指導過程の再検討）
- 36 04 447 関根忠 体積教授（各科指導過程の再検討）
- 36 04 447 安東寿郎 新算術書尋二上巻の要点（新教科書の研究）
- 36 05 448 高木佐加枝 小学算術の目次及び価値に関する一考察（承前）

36 05	448	橋本為次	尋二児童「時計の直観・労作・算術」
36 05	448	算術研究部	新算術二学年教材研究座談会
36 06	450	池松良雄	生活算術と新算術の關係的解明（一）
36 06	450	算術研究部	新算術二学年教材研究座談会
36 07	451	山本松七	数觀念の養成
36 07	451	池松良雄	生活算術と新算術の關係的解明（二）
36 07	451	算術研究部	新算術二学年教材研究座談会
36 08	453	山本松七	数觀念の養成について（承前）
36 08	453	高木佐加枝	新旧算術書の「掛算九々」指導に関する差異
36 08	453	算術研究部	新算術二学年・教材研究座談会記録
36 09	454	高木佐加枝	数の興味ある性質
36 09	454	関根忠	数理思想について
36 09	454	池松良雄	生活算術と新算術の關係的解明（三）
36 09	454	山本松七	数觀念の養成について（承前）
36 09	454	算術研究部	新算術二学年・教材研究座談会記録（承前）
36 10	455	関根忠	数理思想について（続）
36 10	455	安東寿郎	新算術尋二下巻の教材大要及び其の取扱
36 10	455	算術研究部	新算術二学年・教材研究座談会記録（承前）
36 11	457	関根忠	数理思想について（続）
36 11	457	高木佐加枝	算術教育に於ける問題提示の様式
36 11	457	池松良雄	生活算術と新算術の關係的考察
36 11	457	算術研究部	新算術二学年・教材研究座談会記録
36 12	458	高木佐加枝	算術教育に於ける問題提示の様式（承前）
36 12	458	池松良雄	算術教育に閉却される問題
36 12	458	算術研究部	新算術二学年・教材研究座談会記録
37 01	460	山本松七	尋三算術教育内容の吟味（教育内容の改善と各科教育）
37 01	460	高木佐加枝	尋四の算術教育内容改善と方法上の諸問題 (教育内容の改善と各科教育)
37 01	460	池松良雄	尋五算術科の内容改善（教育内容の改善と各科教育）
37 01	460	関根忠	尋六算術書の教材について（教育内容の改善と各科教育）
37 01	460	武井勇喜	高等小学算術教育内容改善について（教育内容の改善と各科教育）
37 01	460	橋本為次	直観学習の尊重
37 01	460	算術研究部	新算術二学年・教材研究座談会記録
37 02	461	高木佐加枝	算術教育に於ける問題提示の様式（承前）
37 02	461	山本松七	児童に問題を作らせること（一）
37 02	461	橋本為次	尋三児童の桿秤使用練習
37 02	461	算術研究部	新算術二学年・教材研究座談会記録
37 03	462	高木佐加枝	算術教育に於ける問題提示の様式（承前）
37 03	462	山本松七	児童に問題を作らせること（二）
37 03	462	橋本為次	尋三児童の桿秤使用練習（承前）
37 03	462	算術研究部	新算術二学年・教材研究座談会記録

- 37 04 463 高木佐加枝 中学年算術教育に対する二つの留意点
- 37 04 463 橋本為次 直観学習の重視
- 37 04 463 池松良雄 上学年算術教育内容改善の一部面
- 37 04 463 関根忠 尋常科上学年の代数教授について
- 37 04 463 武井勇喜 統合主義の算術教育
- 37 05 464 山本松七 算術教育に於ける練習について
- 37 06 466 関根忠 三学年算術上巻の教材
- 37 06 466 高木佐加枝 関数観念の養成から見た尋三算術書（上）
- 37 06 466 算術研究部 尋常五年算術科研究授業記録
- 37 06 466 算術研究部 新算術三学年・教材研究座談会記録
- 37 07 467 関根忠 三学年算術上巻の教材
- 37 08 469 関根忠 算術教授に於ける理論と実践
- 37 08 469 高木佐加枝 高等一年算術教育・代数式指導の入門
- 37 08 469 山本松七 総九々について
- 37 08 469 算術研究部 新算術三学年・教材研究座談会記録
- 37 09 470 関根忠 始期の算術教授について
- 37 09 470 山本松七 新算術書に於ける代数教材の一考察
- 37 09 470 高木佐加枝 尋三の掛算指導（算術書上巻）に就いて
- 37 10 471 高木佐加枝 尋三算術書に於ける順列・組み合わせの問題
- 37 10 471 関根忠 幾何教材としての立体形と平面形
- 37 10 471 山本松七 新算術書に於ける代数教材の一考察（承前）
- 37 10 471 算術研究部 新算術三学年・教材研究座談会記録
- 37 11 473 山本松七 新算術書に於ける代数教材の一考察（承前）
- 37 11 473 算術研究部 新算術三学年教材研究座談会記録
- 37 12 474 高木佐加枝 筆算の導入（加減）
- 37 12 474 山本松七 遊戯と算術教育
- 37 12 474 算術研究部 新算術三学年教材研究座談会記録
- 38 01 476 武井勇喜 時局と小学算術教育（国民精神総動員と各科教育）
- 38 01 476 高木佐加枝 時局と算術教育（国民精神総動員と各科教育）
- 38 01 476 山本松七 時局と算術教育（国民精神総動員と各科教育）
- 38 01 476 関根忠 算術教育と科学的思想（国民精神総動員と各科教育）
- 38 02 477 武井勇喜 時局と小学算術教育（続）
- 38 02 477 高木佐加枝 筆算の導入
- 38 02 477 関根忠 形体教授に於ける幾何図形の意味
- 38 02 477 算術研究部 尋常科第二学年算術科研究授業記録
- 38 03 478 武井勇喜 幾何模様の指導理論について
- 38 03 478 高木佐加枝 筆算の導入（除法）
- 38 03 478 関根忠 数理思想と科学的精神
- 38 03 478 算術研究部 新算術三学年・教材研究座談会記録
- 38 04 479 高木佐加枝 上級学校入学試験算術科問題と小学校算術教育
- 38 04 479 山本松七 時局と算術教育の実践（承前）

38 04	479	関根忠	「小学算術」に於けるグラフ教材の発展
38 05	480	高木佐加枝	数範囲の拡張と数概念の養成
38 05	480	山本松七	時局と算術教育の実践（承前）
38 06	481	山本松七	時局と算術教育の実践（承前）
38 07	483	高木佐加枝	数範囲の拡張と数概念の養成（承前）
38 07	483	関根忠	第四学年算術書上巻に於ける空間教材の発展
38 07	483	山本松七	時局と算術教育の実践（承前）
38 08	485	山本松七	時局と算術教育の実践（承前）
38 08	485	算術研究部	尋四新算術書教材研究座談会記録
38 09	486	高木佐加枝	数範囲の拡張と数概念の養成（承前）
38 09	486	関根忠	尋二算術指導実践の反省
38 09	486	山本松七	時局と算術教育の実践（承前）
38 09	486	算術研究部	尋常科第一学年算術科研究授業記録
38 10	487	武井勇喜	算術教育偶感
38 10	487	高木佐加枝	数範囲の拡張と数概念の養成
38 10	487	山本松七	時局と算術教育の実践（承前）
38 11	489	山本松七	時局と算術教育の実践（承前）
38 12	490	高木佐加枝	「小学算術」の誤れる活用
38 12	490	池松良雄	新算術の目的々考察（一）
38 12	490	山本松七	時局と算術教育の実践
38 12	490	算術研究部	尋四（下）新算術書教材研究座談会記録
39 01	492	武井勇喜	長期建設と算術教育
39 01	492	高木佐加枝	「小学算術」の誤れる活用（承前）
39 01	492	関根忠	算術の実証性
39 01	492	山本松七	長期建設と算術教育の実践拠点
38 02	493	池松良雄	新算術に於ける長期建設の一方面
39 02	493	高木佐加枝	「小学算術」の誤れる活用
39 02	493	山本松七	時局と算術教育の実践
39 02	493	算術研究部	尋四（下）新算術書教材研究座談会記録
39 03	494	山本松七	長期建設と算術教育の実践
39 04	495	高木佐加枝	「小学算術」の誤れる活用
39 05	496	高木佐加枝	尋常五年に於ける方程式指導の入門
39 06	498	関根忠	算術と合理性
39 07	499	高木佐加枝	尋常五年算術教育・計算法に関する一注意事項
39 07	499	関根忠	代数教材について
39 08	501	関根忠	国民算術の再提唱
39 09	502	高木佐加枝	小学算術の実践原理
39 10	503	高木佐加枝	算術教育に於ける時局教材（皇民錬成と各科の教育）
39 10	503	山本松七	皇民錬成の算術教育（皇民錬成と各科の教育）
39 10	503	池松良雄	皇民錬成と算術教育（皇民錬成と各科の教育）
39 10	503	関根忠	空間教授の発展（皇民錬成と各科の教育）

39 12	506	高木佐加枝	小学算術教育に於ける概算
39 12	506	山本松七	直方体に関する一考察
39 12	506	関根忠	算術実践上の着眼
40 01	508	高木佐加枝	理数科としての算数教育
40 01	508	武井勇喜	高等国民学校に於ける理数科取扱ひの一端
40 01	508	池松良雄	理数科に於ける算数教育
40 01	508	山本松七	国民学校算数案に関する所感
40 02	509	高木佐加枝	小学算術に於ける概算
40 03	510	池松良雄	新算術と算数教育
40 04	511	高木佐加枝	算数教育の目的について
40 04	511	関根忠	尋三算術の重要性和指導の計画
40 05	512	高木佐加枝	算数教育の方法論
40 05	512	関根忠	尋四空間教材の意味
40 06	514	高木佐加枝	算数教育の方法論
40 06	514	関根忠	国民算術と小学算術
40 06	514	山本松七	理数科の成立に具へて
40 06	514	池松良雄	新算術と算数教育
40 07	515	武井勇喜	国民学校理数科の精神
40 07	515	山本松七	理数科の成立に具へて (続)
40 07	515	高木佐加枝	算数教育の方法論 (承前)
40 07	515	関根忠	国民学校と理数科算数
40 08	517	武井勇喜	国民学校理数科と国防
40 08	517	山本松七	算数目的数理的処理の定明
40 08	517	関根忠	国民学校と理数科算数
40 09	518	高木佐加枝	算数教育の方法論 (承前)
40 09	518	関根忠	国民学校と理数科算数 (続)
40 09	518	山本松七	算数目的数理的処理の定明 (二)
40 10	519	山本松七	教育勅語と算数教育
40 10	519	高木佐加枝	算数教育の方法論 (承前)
40 10	519	関根忠	算数と錬成
40 11	521	池松良雄	理数科算数教育の目的論 (四)
40 11	521	高木佐加枝	算数教育の方法論 (承前)
40 12	522	高木佐加枝	対応・集合・順序・連続・無限・極限の觀念
40 12	522	関根忠	筆算割算の指導

(くらはら きよひと 本学助教授 教職)